

2022年6月19日 午前礼拝
「エペソでのパウロの伝道」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 19:8~12

- 8 それから、パウロは会堂に入って、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、彼らを説得しようと努めた。
- 9 しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。
- 10 これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。
- 11 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。
- 12 パウロの身に付けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。

【説教要約】

使徒 19:2, 「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ねると、彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした。」と答えた。

使徒 19:3, 「では、どんなバプテスマを受けたのですか。」と言うと、「ヨハネのバプテスマです。」と答えた。

使徒 19:4, そこで、パウロは、「ヨハネは、自分のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、悔い改めのバプテスマを授けたのです。」と言った。

ヨハネは自分の後から来られるイエス様を信じるように、悔い改めのバプテスマを授けたのです。「悔い改め」とは自分自身を信じていたことからイエス様を信じるようにするよう
に方向転換をすることです。

使徒 19:5, これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってバプテスマを受けた。

使徒 19:6, パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。

マタイ 28:19, それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。現在は牧師が教会員の頭の上に手を置くと教会員が異言を語ったり、預言をしたりすることはありません。使徒 10 章では異邦人も救われるという証拠のために異邦人が異言を語ったのです。今回はバプテスマのヨハネの弟子もイエス様を信じれば救われるという証拠に、彼らは異言を語ったり預言をしたりしたのです。

使徒 19:8, それから、パウロは会堂にはいって、三か月の間大胆に語り、神の国について論じて、彼らを説得しようと努めた。

使徒 19:9, しかし、ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。

使徒 19:10, これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。

使徒 19:11, 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行なわれた。

使徒 19:12, パウロの身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。

「神の国」

- ① 神の国の王様はイエス様です。
- ② 神の国の市民はイエス様を信じる人です。
- ③ イエス様が地上再臨された後、千年王国が始まります。千年王国の王様はイエス様です。千年王国の市民はイエス様を信じる人たちです。

ある者たちが心をかたくなにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らから身を引き、弟子たちをも退かせた。この判断は聖霊の導きです。毎日ツラノの講堂で論じた。

使徒 19:10, これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。

マルコ 16:15, それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

Ⅱテモテ 4:2 **みことば**を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

御言葉に従うと神様が働いてくださいます。

(1) サウルがダビデを追って出てきた、ダビデがサウルの陣営を偵察したところ、サウルは幕屋の中で寝ていた。それからダビデはアビシャイを連れて、サウルの陣営の中に行くとサウルは寝ており、サウルの槍がサウルのそばに突き刺してあり、サウルは寝ていた。

アビシャイはダビデに言った。「神はきょう、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうぞ私に、あの槍で彼を一気に地に刺し殺させてください。二度することはいりません。」しかしダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。主に油そそがれた方に手を下して、だれが無罪でおられよう。」**ダビデは神様に従いました。神様が働いてくださいます。**

サムエル記第一 26 : 1~25

1, ジブ人がギブアにいるサウルのところに来て言った。「ダビデはエシモンの東にあるハキラの丘に隠れているではありませんか。」

2, そこでサウルはすぐ、三千人のイスラエルの精鋭を率い、ジフの荒野にいるダビデを求めてジフの荒野へ下って行った。

3, サウルは、エシモンの東にあるハキラの丘で、道のかたわらに陣を敷いた。一方、ダビデは荒野にとどまっていた。ダビデはサウルが自分を追って荒野に来たのを見たので、

4, 斥候を送り、サウルが確かに来たことを知った。

5, ダビデは、サウルが陣を敷いている場所へ出て行き、サウルと、その将軍ネルの子アブネルとが寝ている場所を見つけた。サウルは幕営の中で寝ており、兵士たちは、その回りに宿営していた。

6, そこで、ダビデは、ヘテ人アヒメレクと、ヨアブの兄弟で、ツエルヤの子アビシャイとに言った。「だれか私といっしょに陣営のサウルのところへ下って行く者はいないか。」するとアビシャイが答えた。「私があなといっしょに下って行きます。」

7, ダビデとアビシャイは夜、民のところに行った。見ると、サウルは幕営の中で横になって寝ており、彼の槍が、その枕もとの地面に突き刺してあった。アブネルも兵士たちも、その回りに眠っていた。

8, アビシャイはダビデに言った。「神はきょう、あなたの敵をあなたの手に渡されました。どうぞ私に、あの槍で彼を一気に地に刺し殺させてください。二度することはいりません。」

9, しかしダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。主に油そそがれた方に手を下して、だれが無罪でおられよう。」

10, ダビデは言った。「主は生きておられる。主は、必ず彼を打たれる。彼はその生涯の終わりに死ぬか、戦いに下ったときに滅ぼされるかだ。」

11, 私が、主に油そそがれた方に手を下すなど、主の前に絶対にできないことだ。さあ、今は、あの枕もとにある槍と水差しとを取って行くことにしよう。」

12, こうしてダビデはサウルの枕もとの槍と水差しとを取り、ふたりは立ち去ったが、だれひとりとしてこれを見た者も、気づいた者も、目をさました者もなかった。主が彼らを深い眠りに陥られたので、みな眠りこけていたからである。

13, ダビデは向こう側へ渡って行き、遠く離れた山の頂上に立った。彼らの間には、かなりの隔りがあった。

14, そしてダビデは、兵士たちとネルの子アブネルに呼びかけて言った。「アブネル。返事をしろ。」アブネルは答えて言った。「王を呼びつけるおまえはだれだ。」

15, ダビデはアブネルに言った。「おまえは男ではないか。イスラエル中で、おまえに並ぶ者があろうか。おまえはなぜ、自分の主君である王を見張っていなかったのだ。兵士のひとりが、おまえの主君である王を殺しにはいり込んだのに。」

16, おまえのやったことは良くない。主に誓って言うが、おまえたちは死に値する。もおまえたちの主君、主に油そそがれた方を見張っていなかったからだ。今、王の枕もとにあった王の槍と水差しが、どこにあるか見てみよ。」

17, サウルは、それがダビデの声だとわかって言った。「わが子ダビデよ。これはおまえの声ではないか。」ダビデは答えた。「私の声です。王さま。」

18, そして言った。「なぜ、わが君はこのしもべのあとを追われるのですか。私が何をしたというのですか。私の手に、どんな悪があるというのですか。」

19, 王さま。どうか今、このしもべの言うことを聞いてください。もし私にはむかうように

誘いかけられたのが主であれば、主はあなたのささげ物を受け入れられるでしょう。しかし、それが人によるのであれば、主の前で彼らがのろわれますように。彼らはきょう、私を追い払って、主のゆずりの地にあずからせず、行ってほかの神々に仕えよ、と言っているからです。

20, どうか今、私が主の前から去って、この血を地面に流すことがありませんように。イスラエルの王が、山で、しゃこを追うように、一匹の蚤をねらって出て来られたからです。」

21, サウルは言った。「私は罪を犯した。わが子ダビデ。帰って来なさい。私はもう、おまえに害を加えない。きょう、私のいのちがおまえによって助けられたからだ。ほんとうに私は愚かなことをして、たいへんなまちがいを犯した。」

22, ダビデは答えて言った。「さあ、ここに王の槍があります。これを取りに、若者のひとりをおこしてください。」

23, 主は、おのおの、その人の正しさと真実に報いてくださいます。主はきょう、あなたを私の手に渡されましたが、私は、主に油そそがれた方に、この手を下したくはありませんでした。

24, きょう、私があなたのいのちをたいせつにしたように、主は私のいのちをたいせつにして、すべての苦しみから私を救い出してくださいます。」

25, サウルはダビデに言った。「わが子ダビデ。おまえに祝福があるように。おまえは多くのことをするだろうが、それはきっと成功しよう。」こうしてダビデは自分の旅を続け、サウルは自分の家へ帰って行った。

ダビデはサウルが自分を殺しに来たことを知っているのです。アビシャイが言うようにサウルの槍で一突きすればサウルは死に、ダビデはサウルから命を狙われることはないのです。**ダビデは自分の命よりも神様の御言葉を守ることを優先しています。ですから神様が働いてくださるのです。**

(2)ダビデは、サウルから殺されると信じています。ダビデがサウルを殺しチャンスが二度もあったのに、「主に油注がれた方を殺してはいけない」と主を恐れてサウルを殺さなかった。ダビデはサウルから殺されると分かっているのに、イスラエルの敵であるペリシテ人の地に逃げたのです。

そしてペリシテ人の王の信頼を受けるためにダビデはイスラエル人と戦っているとうそをついていたのです。ダビデはここまでして主に油注がれたサウルを殺すことはしなかったのです。**ダビデは神様を恐れているのです。だから神様はダビデを用いられたのです。**

サムエル記第一 27:1~12

1, ダビデは心の中で言った。「私はいつか、いまに、サウルの手によって滅ぼされるだろう。ペリシテ人の地にのがれるよりほかに道はない。そうすれば、サウルは、私をイスラエルの領土内で、くまなく捜すのをあきらめるであろう。こうして私は彼の手からのがれよう。」

2, そこでダビデは、いっしょにいた六百人の者を連れて、ガテの王マオクの子アキシユのところへ渡って行った。

3, ダビデとその部下たちは、それぞれ自分の家族とともに、ガテでアキシユのもとに住み

ついた。ダビデも、そのふたりの妻、イスラエル人アヒノアムと、ナバルの妻であったカメル人アビガイルといっしょであった。

4, ダビデがガテへ逃げたことが、サウルに知らされると、サウルは二度とダビデを追おうとはしなかった。

5, ダビデはアキシュに言った。「もし、私の願いをかなえてくださるなら、地方の町の一つの場所を私に与えて、そこに私を住まわせてください。どうして、このしもべが王の都に、あなたといっしょに住めましょう。」

6, それでアキシュは、その日、ツィケラグをダビデに与えた。それゆえ、ツィケラグは今日まで、ユダの王に属している。

7, ダビデがペリシテ人の地に住んだ日数は一年四か月であった。

8, ダビデは部下とともに上って行って、ゲシュル人、ゲゼル人、アマレク人を襲った。彼らは昔から、シュルのほうエジプトの国に及ぶ地域に住んでいた。

9, ダビデは、これらの地方を打つと、男も女も生かしておかず、羊、牛、ろば、らくだ、それに着物などを奪って、いつもアキシュのところに帰って来ていた。

10, アキシュが、「きょうは、どこを襲ったのか。」と尋ねると、ダビデはいつも、ユダのネゲブとか、エラフメエル人のネゲブとか、ケ二人のネゲブとか答えていた。

11, ダビデは男も女も生かしておかず、ガテにひとりも連れて来なかった。彼らが、「ダビデはこういうことをした。」と言って、自分たちのことを告げるといけない、と思ったからである。ダビデはペリシテ人の地に住んでいる間、いつも、このようなやり方をしていた。

12, アキシュはダビデを信用して、こう思った。「ダビデは進んで自分の同胞イスラエル人に忌みきらわれるようなことをしている。彼はいつまでも私のしもべになっていよう。」

ダビデはイスラエルの敵国ペリシテの王アキシュのところに逃げてアキシュをだましてまで、サウルから殺されないで、自分もサウルを殺さないで神様の言葉を守ったのです。だから神様はダビデを守ってくださいました。

(3) ダビデがウリヤの妻と姦淫の罪を犯し、その罪を隠すためにウリヤを戦場の最前線に送り戦死させた。そしてウリヤの妻を自分のものとした。

サムエル記第二 11:2~17

2, ある夕暮れ時、ダビデは床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、ひとりの女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。

3, ダビデは人をやって、その女について調べたところ、「あれはヘテ人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバではありませんか。」との報告を受けた。

4, ダビデは使いの者をやって、その女を召し入れた。女が彼のところに来たので、彼はその女と寝た。…その女は月のものの汚れをきよめていた。…それから女は自分の家へ帰った。

5, 女はみごもったので、ダビデに人をやって、告げて言った。「私はみごもりました。」

6, ダビデはヨアブのところへ人をやって、「ヘテ人ウリヤを私のところに送れ。」と言わせた。それでヨアブはウリヤをダビデのところへ送った。

7, ウリヤが彼のところには行って来ると、ダビデは、ヨアブは無事にいるか、兵士たちも変わらないか、戦いもうまくいっているか、と尋ねた。

8, それからダビデはウリヤに言った。「家に帰って、あなたの足を洗いなさい。」ウリヤが王宮から出て行くと、王からの贈り物が彼のあとに続いた。

9, しかしウリヤは、王宮の門のあたりで、自分の主君の家来たちみなといっしょに眠り、自分の家には帰らなかった。

10, ダビデは、ウリヤが自分の家には帰らなかった、という知らせを聞いて、ウリヤに言った。「あなたは遠征して来たのではないか。なぜ、自分の家に帰らなかったのか。」

11, ウリヤはダビデに言った。「神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私だけが家に帰り、飲み食いして、妻と寝ることができましようか。あなたの前に、あなたのたましいの前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。」

12, ダビデはウリヤに言った。「では、きょうもここにとどまるがよい。あすになったらあなたを送り出そう。」それでウリヤはその日と翌日エルサレムにとどまることになった。

13, ダビデは彼を招いて、自分の前で食べたり飲んだりさせ、彼を酔わせた。夕方、ウリヤは出て行って、自分の主君の家来たちといっしょに自分の寝床で寝た。そして自分の家には行かなかった。

14, 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤに持たせた。

15, その手紙にはこう書かれてあった。「ウリヤを激戦の真正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が打たれて死ぬようにせよ。」

16, ヨアブは町を見張っていたので、その町の力ある者たちがいると知っていた場所に、ウリヤを配置した。

17, その町の者が出て来てヨアブと戦ったとき、民のうちダビデの家来たちが倒れ、ヘテ人ウリヤも戦死した。

(4) 神様が預言者ナタンをダビデのところに遣わし、ダビデの罪を悔い改めさせました。

サムエル記第二 12:1~9

1, 主がナタンをダビデのところに遣わされたので、彼はダビデのところに来て言った。「ある町にふたりの人がいました。ひとは富んでいる人、ひとは貧しい人でした。

2, 富んでいる人には、非常に多くの羊と牛の群れがいますが、

3, 貧しい人は、自分で買って来て育てた一頭の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちといっしょに暮らし、彼と同じ食物を食べ、同じ杯から飲み、彼のふところでやすみ、まるで彼の娘のようでした。

4, あるとき、富んでいる人のところにひとりの旅人が来ました。彼は自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を取り上げて、自分のところに来た人のために調理しました。」

5, すると、ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「主は生きておられる。そんなことをした男は死刑だ。

6, その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」

7, ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、主はこう仰せられる。『わたしはあなたに油をそそいで、イスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。

8, さらに、あなたの主人の家を与え、あなたの主人の妻たちをあなたのふところに渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ないというのなら、わたしはあなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。

9, それなのに、どうしてあなたは主のことばをさげすみ、わたしの目の前に悪を行なったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。

出エジプト記 20:13, 殺してはならない。

出エジプト記 20:14, 姦淫してはならない。

ダビデは殺してはならないと姦淫してはならない。

アマレクの間は凄絶したが、二つの罪を犯しています。

サムエル記第二 12:10~13

10, 今や剣は、いつまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしをさげすみ、ヘテ人ウリヤの妻を取り、自分の妻にしたからである。』

11, 主はこう仰せられる。『聞け。わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で取り上げ、あなたの友に与えよう。その人は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。』

12, あなたは隠れて、それをしたが、わたしはイスラエル全部の前で、太陽の前で、このことを行なおう。』

13, ダビデはナタンに言った。「私は主に対して罪を犯した。」ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった。あなたは死なない。

ダビデは、殺人や姦淫の行為を悔い改めているわけではありません。神様を侮った罪を悔い改めているのです。ダビデとサウルの違いは、ダビデは神様を侮った罪を悔い改めています。

サウルは、「アマレクの間は凄絶したが、羊や牛のもっともよいものを凄絶しなかっただけだ」と考えています。サウルは神様を侮ったとは考えていません。

これがダビデとサウルの決定的な違いです。日本人は天地創造の神様を知らないので、人と比較して私はあんなひどい人ではないと考えます。

罪は神様を恐れるためにあるのです。神様を恐れると神様は祝福して下さいます。御言葉に従うと神様が働いて下さいます。

Iヨハネ 4:10, 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。